

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570707174		
法人名	医療法人仁恵会		
事業所名	グループホーム夕陽の丘2号館		
所在地	秋田県湯沢市山田字中屋敷14番地		
自己評価作成日	平成23年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研修会		
所在地	秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成23年10月31日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、認知症対応型共同生活介護の趣旨に則った、基本に忠実なホーム運営を心がけており、スタッフはあたりまえの事をあたりまえにできるよう日々努力しております。理念と個別ケアを重視する事を大事な価値観としており、基本理念である「自立と相生」には、互いに新しいものを生み出す関係という意味があり、また個別ケアが少しずつ他人とかかわり合いを持つ事でケアの相乗効果を生むイメージを大切にしております。またこれを裏打ちする知識や技術の向上のため、内外の研修への参加や、資格取得を奨励しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年間を通して教育研修が数多く行われ、「自立と相生」という基本理念が周知されて、職員は一人となって利用者がホームで普通に生活できるよう取り組まれています。職員と利用者が互いに助け合い、共に学びあう関係にあり、地域の理解も得られて恵まれた環境の中で理念に沿ったサービスが提供されています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの趣旨に照らした理念を策定し、入職時、又定期的に理念教育を行っている。理念は運営方針や行動規範に反映させ、実践しやすいようにしている。	フロア会議や内部研修、カンファレンス等で話し合われる機会が多く、職員は理念の意義を理解し、日々のケアに活かして実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域会に加入し、1世帯として各種行事、学校行事等に参加している。又、地域や小学校から車椅子を寄贈された時がある。	敷地内の障害者生活訓練施設が設立された当初から地域の理解が得られており、事業所として受け入れられています。地域の行事には積極的にに関わり、小学校とは相互に交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域行事に利用者様と共に参加し、積極的に交流を図るように心掛けている。運営推進会議等を通じて認知症について説明し理解を求めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営報告のほか、認知症ケアの事例発表をし、認知症やグループホームに対する理解を深めて頂けるよう努めている。意見などは、フロア会議で話し合い、サービス向上に努めている。	年間の計画を立てて定期的開催されています。フロア会議で職員に報告され、出された意見が運営に反映されるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で取り組みを伝えているほか、必要に応じて報告、相談するよう努めている。	包括職員や市担当職員と関わる機会が多く、協力しながら利用者の生活を支援されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的事項の他、気づきにくい事例についても研修している。センサーを活用し、不必要な施錠はしていない。	研修を通じて身体拘束禁止の周知を図り、利用者が安全に過ごせるための話し合いが行われて、個々に応じた工夫をされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束同様、基本事項のほか、気付いた場合の報告方法についても研修している。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等を行い、学ぶ機会を設けている。現在活用している利用者様もおり、又必要な方がいた場合、活用できる様に支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を契約時に読み合わせ、不安や疑問点を尋ね、理解と納得をして頂くよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などで相談、要望等引き出す声掛けをしているほか、意見箱を設置して受け付けしている。極力責任者が即応するほか、フロア会議で話し合い、迅速に対応している。	面会時には管理者、ホーム長が意見、要望を聞く機会を設け、運営に反映されるよう取り組まれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から風通しの良い組織をめざしており、その都度個々に話しを聞いたり、フロア会議などで意見や提案を聞く機会を設けている。	日常的にコミュニケーションを図って気軽に意見が言い出しやすい環境づくりを心がけ、フロア会議でも積極的に意見が言えるように配慮されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回勤務査定を行い、昇給賞与に反映している。その際面談を通して得た情報から、職場環境や条件の整備に反映するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に内部研修を実施している。外部研修にも積極的参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国団体に加入したり、湯沢市の管理者ネットワークに参加し、情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の相談、又面接時や契約時に不安に思っている事やこまっている事など把握し、良い関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の相談、又面接時や契約時に不安に思っている事やこまっている事など把握し、良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、できる事を見極め、お手伝いしてもらっている。又生活リハビリやレクリエーション等を通し、共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで、常に状態を説明している。又定期的に手紙等でも状態を報告し、共に支えていく関係を築いている。緊急時は家族に付き添ってもらったり、帰宅願望がある人の家族へは電話や面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と面会や外出・外泊などの機会を設けて関係が途切れないように努めている。本人の行きつけの理美容店を継続している方も数人いる。又別々のユニットに入居した同級生や、前の施設で一緒だった人、若い頃近所だった人同士の関係が途切れないように支援している。	一人暮らしをしていた利用者の留守宅まで一緒に出かけ季節の衣類の交換を手伝っている他、家族や馴染みの人との繋がりを大切に考え、継続できるように一人ひとりに合った対応をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションを図れる様、環境を整えたり、時には仲介に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者様の今の状況を話され相談に来る家族もおり対応した。必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の思いや要望を話せる環境を作り、申し送り等で職員が把握できるように努めている。伝えられない方には、本人の立場になり検討している。	これまでの生活習慣や環境を把握し、日々の会話の中からさりげなく意向を聞き取って職員間で情報を共有し、本人本位の生活が送れるように支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	人生背景の把握を重要視しており、センター方式の活用や、前の担当者や事業所等から情報を得て把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り等で、個々の現状を把握する事が出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族の意向を取り入れ、職員全員の意見を反映し介護計画を作成している。	毎月職員全員でカンファレンスを行い計画の見直しに繋がっています。利用者、家族にも確認して現状に即した介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケース記録があり、日々の様子を具体的に記録している。又ユニットに申し送りノートがあり全職員が情報を共有し統一ケアの提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではないが、地域の行事等に利用者様と一緒に参加し楽しんでもらっている。又、各機関と連携・協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人が希望する医療機関を受診している。主治医や協力医療機関、又、気軽に相談できる薬剤師や看護師がおり連携をとっている。	専門医には職員が同行しており、家族にも報告されています。家族が受診介助される時には、かかりつけ医にFaxで現状を伝え、関係者と連携しながら適切な医療が受けられるよう支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として老健の看護師が定期的に来訪しており、又電話等でも相談や助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話や直接赴き、医療機関との情報共有に努めている。入退院がスムーズに進むように家族のフォローにも配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、家族には重度化や終末期の方針を伝えている。現在、事業所には、看護師がおります。往診できる医師の確保も難しい。その為、家族や主治医と連携しホームで出来る事等を共有し支援している。	契約時に事業所の指針を示し、ホームで行うことを説明して同意を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が年1回救急救命の講習を受けている。又、毎月職員間でも実践訓練を行って、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画により訓練を年2回行っており、消防隊・地域の消防団・地域代表者にも協力を得ている。	日中、夜間を想定した訓練が行われています。スプリンクラーが設置され、敷地内の同一法人施設との連携も図られています。訓練結果を振り返り、避難経路の再確認等、火災以外の災害を想定した訓練を実施することも検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛け・対応を心掛けており、プライドを傷つけないようプライバシーに配慮している。又、個人情報に関して細心の注意をはらっており職員間にも周知している。	研修は年2回実施されて利用者の思いや行動に配慮できる対応を心がけ、職員は一人ひとりに合った言葉をかけて、誇りを傷つけることのないよう対応されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、思いや願いを傾聴するように、又申し送り等で統一したケアを心掛けている。意志を伝達出来る方には、自己決定出来るよう働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添った生活ができるよう、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	外出着と普段着をわけるなど、その時々に合わせて装いが出来るよう支援している。又、行きつけの美容院をりようする方もおり、家族と一緒に掛かけ、気分転換を図られている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを把握しており、好みに応じた食事を提供している。又、職員と一緒に食事準備や片付けを行っている。	法人の栄養士が作成した献立を調理しています。畑で収穫した野菜も食材に加え、下拵えや盛りつけ等、利用者ができることを手伝っていただきながら、同じテーブルで食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チャック表を利用し1日の水分量が確保できているか把握している。又、食事に関しても毎食時にチャックすると共に体調面にも配慮し、その都度食事形態を変えたりする事で、栄養状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしたり、出来ない方にも介助をすることで口腔清潔に努めている。又、夕食後は入れ歯を外して就寝してもらっている。週1回はポリドントにつけて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや特徴的な仕草を把握し時間毎にトイレ誘導をしており、失禁をなくしている。夜間も排泄パターンを把握しており、失禁する方もオムツは使用せずに、声掛けしトイレ誘導している。	排泄パターンを把握し、オムツを使用しない取り組みをされています。尿取りパッドを本人に合わせて使用し、トイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳やヨーグルト又、バナナ等の提供と、こまめに水分をとってもらっている。又、体操も毎日取り入れ、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のサイクルはあるが、本人の希望や健康状態にあわせ、柔軟に対応している。入浴前のバイタル測定は欠かさず行い、ゆっくり入浴してもらっている。	週2～3回の入浴は確保されており、受診時には早めの入浴とする等柔軟に対応されています。体調や希望に合わせて部分浴を行い、清潔保持できるよう支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースにあわせ休息をとってもらっている。日中はなるべく体を動かすことで夜間安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力的な薬局があり、新処方や追加処方時は、副作用・用法・用量を確認し理解に努めている。又、服薬一覧表を作成することで全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力量を把握し、食事準備や後片付け等で役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	近隣を散歩したり買い物に出掛けたり、極力外に出掛けられるよう支援している。又、日々の会話で何処に行きたいかを聞く事で、年間行事に取り入れるようにすると共に、家族と一緒に外出行事を行う機会を設けている。	全員で遠くまでドライブする機会も多く、利用者は出かけることを楽しみにしています。職員は戸外での催しが楽しいものとなるよう計画を立て、駐車場を利用したホームの行事には家族も参加されています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ金銭管理を行ってもらっている。又、外出時に自分で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話す時は、居室でゆっくり話しが出来るよう子機を使用している。又、ホームへ来た手紙や贈り物は本人に伝わるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の換気は勿論、臭いに関しては芳香剤を使用せず、原因を除去するよう支援している。又温度調整にも常に気を配っている。共同空間には、季節にあった装飾や写真、玄関には、四季おりおりの花を飾っている。	利用者が楽しんでいる様子が写っているホームの行事や外出の際の写真が飾り付けされている他、季節の草花や玄関の鉢植え、畳コーナーで利用者が楽しみながら、寛いだ生活ができるよう工夫されています。また、場所表示も利用者の目線に合わせ、混乱を防ぐ配慮をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	座敷やソファ等があり、気の合う利用者様同士で談笑したり、テレビを見たり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みの物や、使い慣れた物を持ってきてもらっており、居心地良く生活できるよう工夫している。	家族の写真を飾ったり、置き畳を用意している利用者もいて、個々の生活の場としています。職員、家族が話し合い、利用者が安全に生活できるようベッドやタンスの配置を工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等に手すりが設置されている。又、必要に応じてトイレや居室の表示をし、混乱を防いでいる。職員が、分かる事、できる事を把握しており、自立支援に努めている。		